Meet the Musicians 楽団員紹介

山形が誇る、ユーモアに富むホルニスト

大野 雄太

Yuta Ohno

［首席ホルン奏者］2011年10月入団

趣味：インドアなこと（読書、PCも手作りしました）

©N.Ikegami

ホルニストは“良い人”

全く覚えていないのですが、自分で習いたいと言ったらしく、小学1年生ではじめてピアノ教室に。その後、近所のお姉さんが光る横笛を吹いていたのを見て「僕も一緒に！」と、同じブラスバンド部に入部しました。しかし、その楽器の名前が分からず、先生に「コルネットがやりたいの？」と聞かれ、ニコニコしていたらその場で楽器が決定してしまったのです。「これ、トランペットじゃないか！」と。何も知らなかった私は「席替えと同じ感じで、時期が来たら楽器も変わるのかな～」と暢気なことを考えていたのですが、そんなはずもなく、そのままトランペットを続けていました。

ホルンに転向したのは高校生になってから。最初は、顧問の先生から「（トランペットは人が足りているから）ユーフォニウムどうかな」と提案されたのです。「まぁ考えてみてよ」と儀式的に持ち帰させられ、私はすっかりユーフォニアムを吹く決意を固めて、いざ先生のところへ行くと、今度は「お前の唇はユーフォじゃない、ホルンはどうだ？」と（笑）。

ホルン吹きは、「じゃあ僕がホルンをやりますよ」と空気を読んで楽器を始めるような、大らかで僕みたいな良い人が多いですからね（笑）。他のオーケストラでもホルンセクション同士とても仲が良いです。

東京交響楽団とTake a Riskと

今からちょうど10年前、東日本大震災が起こりました。あのとき、TVからCMが消え、音楽が消えました。東響のホームであるミューザ川崎シンフォニーホールもしばらく使えない状況。まだ入団前でしたが「ああ、このオーケストラ、すごく大変な状況だな」、そして「よし、東京交響楽団に入団しよう」と決めたのを覚えています。ノット監督が言った「Take a Risk」は私のスローガンにとても近いものがあります。安定なものよりリスクのあるものに惹かれるというような、そこに身を置きたいと思うのです。

あれから10年。このコロナ禍は大変ですが、技術の進歩、そして応援して下さる皆さんのおかげで、音楽は止まることなく過ごせています。厳しい状況は、時により良いものを生みだすこともあります。苦境と思えることもよい方向に、ポジティヴに挑戦していきたいです。

トランペットを吹いていた小学生の頃。

インタビュー：事務局